

指定校番号	28064	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	村上 みどり	生徒指導主事	永井 利明
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『児童会活動』

取組のねらい『主体性や自主性の育成』

全児童がよりよい学校生活を送るために、協力して諸問題を解決しようとする自主的実践的態度を育てるとともに6年生にリーダーとしての自覚と責任を持たせる。

取組の具体的内容『キーワード 主体性』

◎あいさつの取組



○あいさつ運動

- 児童会役員の方約「あたり前のことをあたり前にする学校」をめざし、あいさつもあたり前にできる学校にする取組として児童会と教職員であいさつ運動をする。

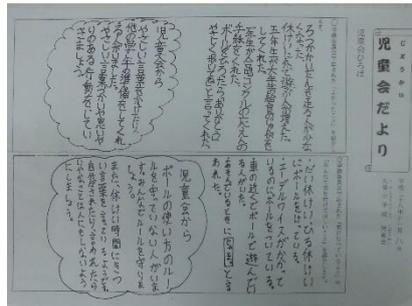
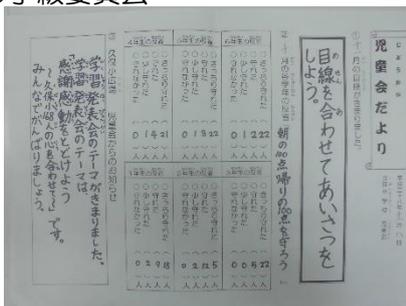
○あいさつ貯金魚

- 児童会役員が、あいさつをしている児童を肯定的に評価し、あいさつのよい児童に対して鱗の形をしたグッドカードを配り、各学年の一人当たりの枚数で比べ、優勝した学年には全校の前で表彰する。

○あいさつ名人の認定

- よりよいあいさつができる児童を増やすために、よいあいさつの基準を示し、よいあいさつができる児童を名人に認定し、表彰する。

◎学級委員会



○代表委員会

- 児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話し合い活動の充実及び活性化を図るために代表委員会を開く。
(各学年で話し合ってくる内容)
- 毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標
- 学校生活の中でよかったと思うことや困っていること
- 児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は随時児童会に連絡する）

※事後の取組

- ・児童会だよりを全教職員と各クラスに配布し、教室に掲示しておく。
- ・よかったことについては全校集会で紹介する。
- ・気になっていることや困っていることは、児童会から各クラスに連絡したり、啓発ポスターなどを掲示したりして問題解決をしていく。

◎リーダーの育成



○縦割り班活動

- ・灯籠づくりの際、縦割り班の6年生が、1年生に作り方を指導したり、休憩時間に転がしドッジや鬼ごっこなどの他学年との遊びをしたりする。

○集会などの引率

- ・毎週火曜日の集会に、6年生が他学年を並ばせ、体育館に引率したり、ランランタイムやジャンピングタイムなど他学年の前に立って指導したりする。

取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底』

- ・生活目標を考えることはできたが、日々の生活の中で課題を意識することができたが、全ての児童が行動できていない。
- ・6年生へのアンケート調査では、「他学年を時間内に連れていくことができた」と「他学年を静かに連れていくことができた」が、1学期は91%だったが、2学期末には75%まで下がった。また、声掛けをしたり、注意をしたりすることができていない児童がいるという課題が出た。

取組の成果（効果）『キーワード 自覚と習慣化』

- ・学期の振り返りのアンケートで「学校で起きた問題に気付くことができた」が、1学期が74.1%から2学期は85.5%に、「学校で起きた問題に対して、友達と協力して解決することができた」は1学期が73.6%から2学期は77.1%まで上がった。
- ・6年生にリーダーとしての役割を与えることによって、久保小をリードしている自覚を持って行動する児童が増えてきた。

今後の展開『キーワード 継続と発展』

- ・学級会活動で自分たちの生活を見直すことによってよりよい学校にしていこうとする実践的態度を養うことができる児童が増えてきた。また、6年生をリーダーとして位置付けることによって最高学年としての自覚と責任を持つことができつつある。この取組を継続し、さらに学級会活動を活発にし、学校生活をより良くしたり、リーダーが主体的に活動したりするような取組をしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 主体性の育成』

- ・自分たちの学校をよりよくするためには、どのようにしたらよいかを自分たちで考える話し合い活動を充実させる。
- ・児童会役員や6年生に役割を与え、どのような活動にしていけるのがよいか考えさせることによって主体性が育成される。

